

「環境教育揭示用教材 第2号」の補助資料の活用例

児童・生徒の持続可能な社会を構築していくための資質・能力の更なる育成を図ることを目的として作成した「環境教育揭示用教材 第2号（下の二次元コード・リンク参照）」の内容を、より深めるための補助資料・活用例・ワークシートです。本補助資料は、一人1台端末を活用して、リンク先のホームページ等から情報を収集し、収集した情報を基に話し合いを行う等、児童・生徒が主体的に学習に取り組むことができます。

補助資料の活用例

私たちが生き物も ともに住み続けられる街づくり

揭示用教材



補助資料



ワークシート



- ① **ねらい** 身近な生物と人間が共存する持続可能な自然環境を保全しようとする意欲を育成する。また、生物多様性と自然環境の課題を理解し、住み続けられる街づくりへの取組を考える。
- ② **環境教育における主な内容 (ESDの構成概念)** 自然や生命の尊重（多様性・公平性）、生態系の保全（相互性、責任性）
共生社会の実現（多様性、連続性）
※環境教育指導資料 P8、P9 参照（二次元コード・リンク参照）
- ③ **関連する SDGs の目標** 【SDGs 11】住み続けられるまちづくり（小学校・中学校共通テーマ）
【SDGs 14】海の豊かさを守ろう、【SDGs 15】陸の豊かさを守ろう

④ 主な活動

○主な活動	□教師の支援 ●留意点	◆補助資料等との関連 ■関連リンク
○補助資料①を見て、メダカがなぜ絶滅が危惧されるまでに数が減ったのかを考える。 ○在来のメダカの絶滅を防ぐために、自分にできることを話し合う。 ○補助資料②を見て、在来のタンポポが減っていることを知る。 ○補助資料③を見て、特定外来生物について知る。 ○補助資料④東京都環境局のホームページ等で特定外来生物による被害を防ぐための取組について調べ、共有する。 ○補助資料⑤を見て、持続可能な街づくりのために、できることや守らなくてはならないことを話し合う。 ○気付いたことや感想を発表する。 ※話し合いや発表、共有の場面では意見交換やプレゼンテーションができるソフトやアプリを活用した授業展開が考えられる。	●都市開発によってどんな環境の変化があったのかを考える。 □環境省「いのちが繋がっている」でメダカが減った理由を確認する。 ●飼育している生き物を放流することが自然にいる生物に影響を与えることに気付かせる。また、飼育している生き物は最後まで責任をもって飼育すること等、考えさせる。 ●都市化により、影響を受けている植物もあることを理解させる。 □必要に応じて、環境省「外来種問題を考える注目の外来種」で在来のザリガニ等を提示する。 ●特定外来生物がどのように日本に持ち込まれ、他の生き物や環境にどんな影響を与えているのかを調べさせる。 □人も生き物もともに住み続けられるような都市開発の視点の必要性に気付かせ、自分にできることを考えさせる。	◆環境教育指導資料 P34～ ◆補助資料① ■環境省「いのちが繋がっている」 ◆ワークシート① ◆補助資料② ◆補助教材③ ◆ワークシート② ◆補助資料④ ■環境省「外来種問題を考える 注目の外来種」 ◆補助資料⑤ ◆ワークシート③

※東京都教育委員会ホームページで、本補助資料を公開しています。環境教育指導資料及び環境教育揭示用教材も公開しておりますので、併せて御活用ください。

補助資料
本資料



環境教育指導資料
教師用



環境教育揭示用教材
児童・生徒・教師用



私たちが生き物も ともに住み続けられる街づくり

年 組 名前

① 在来^{ざいらい}のメダカ^{めだか}の絶滅^{ぜつ}を防ぐ^{ふせ}ために、私たちにできることは何だろう



写真提供：環境省

② 特定外来生物^{かんきょう}は、他の生き物^{えいきょう}や環境^{かんきょう}にどんな影響^{えいきょう}をあたえているだろう



左上写真：戸田光彦 / (一財) 自然環境研究センター
右上2点下2点写真：環境省ホームページ
(<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>)

③ 持続可能^{かのう}な街づくりのために、できることや守らなくてはならないことは何だろう

